

- 特集 -

戦後80年

「記憶をつなぐ」



昭和16年(1941)12月の真珠湾攻撃をきっかけに
日本は太平洋戦争に突入し、多くの命が失われました。

今年は終戦から80年の節目。

長い月日経ち、戦争を実体験として知る方が少なくなるなか、
当時の記憶を共有・継承していくことが改めて重要視されています。

記憶や記録を振り返り、当時を生きた方たちと自身を重ねる。

戦争の悲惨さと平和の尊さを考え、平和への誓いを持つ。

後世が平和であるよう、惨禍の記憶と教訓をこれからにつなぐ特集です。

戦争と笠間

昭和6年(1931)の満州事変から約15年間続いた戦争で、住民の生活は大きな影響を受けました。

「食糧の絶対確保が必勝の鍵」として、政府から米を差し出すことを強く求められ、農村からも出兵が増えたことによる労働力不足で、まちは食糧難となりました。当時の人々は、ドングリやサツマイモなど代用品の確保に努めていたといいます。戦況が悪化すると、「少しでも国民みんなでお金を出して武器に充てよう」という働きかけから、住民の生活はさらに切り詰められました。特に農村部では、昭和4年の世界恐慌の影響を受けていたこともあり、この頃は飢えによって亡くなった方も少なくありませんでした。

昭和19年(1944)になると、大都市の空襲が次第に激しくなり、何万人もの子どもたちが避難のため、地方へ疎開していきました。

昭和20年2月には、アメリカ艦載機グラマンの襲撃があり、笠間市内も機銃掃射の被害に遭いました。当時の笠間駅周辺を回想した記録では、次のように記されています。
「2月25日、どんより曇った日でした。朝警戒警報が鳴って、すぐに空襲警報が発令されると、やがて艦載機のグラマンが3・4機やってきました。爆音をたてて、北の方へ飛んでいったと思うと方向転換して、後ろの方から飛んできて火花を散らして『ダダダダダ』と、機銃掃射をして飛びあがっていきました。駅前通りの家では、機銃掃射され、屋根に穴があいたり、きなくさい臭いが今もしていると騒いでい



教官と練習生



筑波海軍航空隊の基地の様子

若くして 散った尊い命

15年戦争*の戦没者

旧笠間市 961人

旧友部町 427人

旧岩間町 325人

*満州事変から太平洋戦争終結までの期間



筑波海軍航空隊慰霊の集い

平和への思いを寄せる

戦争の悲惨さと平和の尊さを後世に語り継ぎ、戦没者とその御遺族に追悼の意を表すとともに、恒久の平和を祈念するため、「戦没者追悼式」と「筑波海軍航空隊慰霊の集い」を市内で行っています。5月24日に行われた「筑波海軍航空隊慰霊の集い」では、航空隊員の遺族や地元関係者、隣接することも園の園児たちが、戦争で亡くなった隊員を偲びながら献花台に花を手向けました。

ました。悲しさと悔しさでガタガタ震えがきたことを思い出します。」(引用『笠間市史下巻』P417-418)

そして、昭和20年8月15日、終戦を迎えたものの、住民の落胆と不安はとても大きいものでした。

筑波海軍航空隊

昭和9年(1934)、霞ヶ浦航空隊友部分遺隊が旧友部町に開設され、練習機による操縦教育がはじまりました。4年後には「筑波海軍航空隊」として独立。下宿先として海軍兵を預かる家庭も多く、住民にとって筑波海軍航空隊は身近な存在でした。

昭和16年(1941)、ハワイの真珠湾攻撃を皮切りに始まった太平洋戦争により、戦争は激化。多くの海軍飛行予科練習生出身の隊員が筑波海軍航空隊に入隊し、「鬼の筑波」と恐れられた猛特訓に励みました。

さらに戦争が激しくなった昭和19年から、零式艦上戦闘機(零戦)が配備され、実戦部隊として特攻隊が編成されました。昭和20年2月、アメリカ艦載機グラマンによる襲撃を、筑波海軍航空隊から零戦・紫電が迎撃し、空中戦が展開され、23名が戦死しました。

(参考文献)

『友部町史』(1990)、『笠間市史』(1998)

『岩間町史』(2002)、

『新笠間市の歴史』(2011)



記憶をつなぐヒト

みなみ

ひでとし

南 秀利さん

元笠間市文化財保護審議会会長などを努め、現在は笠間市史研究員として、市の歴史にかかわる研究や継承に取り組まれています。

戦後 80 年の節目を迎え、戦争の悲惨さや平和の尊さ、命の大切さを子どもたちに学んでもらおうと、「終戦 80 年戦争と平和の語り部講話」を 6 月 6 日、友部第二小学校で開催しました。

「筑波海軍航空隊」の語り部として、南さんが平和の尊さを語った内容をお届けします。



大切なものは命

皆さんが生きるうえで、一番大切なものは何だと思えますか。

それは命です。その大切な命を奪う戦争を、絶対にはいけません。

昭和9年に霞ヶ浦航空隊友部分遺隊が旧友部町に開設されてから終戦となる昭和20年まで、たった11年の歴史のなかで、悲しいできごとがたくさんありました。

太平洋戦争では、勉学やスポーツに長けた優秀な人たちが神風特別攻撃隊（特攻隊）に招集され、73名が戦死しました。特攻隊のなかには、将来を約束した婚約者がいる方もいました。特攻隊に招集がかかったことで両親の納得が得られないなかでも、二人が強く結婚を望み説得。出撃前に了承を得られましたが、残念ながら2人が生前に夫婦になることはできませんでした。遺影とともに結婚式が行われ、婚

約者が遺影を抱えて撮影された集合写真が今も残っています。

出撃された方はもちろん、送り出した家族や友人も、苦しく、悲しい思いをしました。

平和と命の大切さをつなぐ

世界では、各地で戦争がまだ続いています。戦争は損しか残りません。

特攻隊は、人権のない、命を投げ出す作戦でした。筑波海軍航空隊は、特攻隊の始まりといわれています。その特攻隊や戦争の貴重な記録や史跡が残っているのが「筑波海軍航空隊記念館」です。戦争の歴史を知る人が少なくなるなか、記録を目にして、知って、ぜひ広めてください。

私も歴史を話し続けていくことで、平和や命の大切さを後世につないでいきたいと思っています。

子どもたちの感想

「歴史から今の生活との違いを感じました。家族や友だちとの今の生活が幸せだと思った」

「戦闘機をカッコいいと思っていたけど、その戦闘機が人を傷つける使い方をされると考えると悲しい」

「授業でも学んでいたけど、もっと詳しく知ることができました」

展示で学ぶ



資料展 戦後80年 ～つなぐ想い～

8月9日(土)に行う戦没者追悼式にあわせ、戦時中の史料などを展示します。市民の方からお預かりした戦争に関連する写真・手紙・日記・軍服や兵士の装備品などの史料や遺品を、エピソードとともに展示します。

会期 8月5日(火)～15日(金) 午前9時～午後5時 (最終入場 午後4時)

会場 笠間公民館 1階 展示室 (笠間市石井 2068-1)

問 社会福祉課(内線 157)

筑波海軍航空隊記念館

企画展

筑波海軍航空隊戦闘機隊 蒼空へゆき去りし群像

書籍『筑波海軍航空隊戦闘機隊 蒼空へゆき去りし群像』の発刊を記念して、筑波海軍航空隊の“戦闘機隊”および使用された戦闘機に注目した展示を行います。

会期 8月31日(日)まで

午前9時～午後5時
(最終入場 午後4時)

※毎週火曜日は休館

場所 筑波海軍航空隊記念館
新展示館 1階 企画展示室
(笠間市旭町 654)

問 筑波海軍航空隊記念館
TEL. 0296-73-5777

企画展

IMPERIAL JAPANESE NAVY
筑波海軍航空隊 戦闘機隊
蒼空へゆき去りし群像

2025年 5月21日水 → 8月31日日
筑波海軍航空隊記念館 【営業時間】 9:00～17:00 (最終入場16:00)
【休館日】 毎週火曜日(その他臨時休館あり)

市民の方などが大切に継承されてきた資料などをもとにした資料展・企画展を行っています。ぜひ足をお運びください。